

公益社団法人 諫早大村法人会では、5月27日に総会を開催し、役員選任の結果、石坂和彦氏(株)大黒屋 代表取締役社長)が会長に就任しました。

石坂氏は現在61歳。創業60年の(株)大黒屋の代表として、地元だけでなく全国的に手形割引サービス等を展開。昭和47年以来8期連続、諫早税務署署長より優良法人として表敬状を授与されるなど、大村を代表する企業に発展させました。また、商工会議所や法人会の活動にも長きに亘って貢献され、大村の経済界に深く尽力してこられました。

今回は、会長就任にあたっての抱負や、現今の経済情勢について、たくさんの貴重なお話を頂きました(以下要旨)。



石坂和彦氏(株)大黒屋 代表取締役社長

石坂和彦氏が (公社)諫早大村法人会会長に就任

(記)ご就任おめでとうございます。最初に、会長就任までの経緯を教えてください。

(石)今回の件については、前任の高尾会長からお話があり、恩師である法人会へのご恩返し、という気持ち、同時に私で良いのか、という思いの中で迷いました。それを、以前会長を務められた角谷会頭に背中を押して頂き、お受けする決心をしました。

(記)会長に就任され、法人会活動をこのように展開したいという思いはありますか。

(石)法人会は、企業を元気にするための公益社団法人です。一方、企業とは存続・継続しなければ社会的使命は果たせません。では、企業の存続・継続のために、法人会がどのようなテーマを以て企業の発展を図るか、そこが重要だと思っています。本来の「税」のテーマだけに止まらず、税務と経営を考える経済団体として活性化させたい、というのが願いです。

(記)石坂会長から見て、法人会活動の良いところとは何でしょう。

(石)昨今の経営においては、事業計画の作成、事業承継、M&Aなど、様々な問題が存在します。それを法人会メンバーのネットワークを活用することで解決したい、いわば集約される知識は大きな財産だと思っています。また、私も商工会議所の常議員と

して、総務委員長としてたくさんの貴重な勉強の機会を頂いていますので、法人会活動における会員増強や事業の推進においても、皆さんのお力を借りながら、提言することができます。

(記)確かに現在の経営を取り巻く環境は厳しく、複雑難解な問題が立ち並びます。ただ、安倍政権発足後、景気に対する比較的良好な観測も出ていますね。

(石)とは言っても、中小企業420万社のうち、黒字企業は70万社だけ、というのが現状で、これを政府は140万社に倍増させるという目標を掲げておられますが、それでも7割は赤字です。やはり、企業がいち早く赤字から脱却し、個人も一丸となってかつてのナンバー1の日本を取り戻さなければなりません。それが雇用を守り、人口増加につながり、子育てや介護の環境整備に波及していくと思います。

(記)最後に、地元大村の今後の活性化について質問します。念願の上駅再開発が完成し、新幹線も着工し、道路も整備されるなど、大村はますます住みやすく発展しています。さらに10年後、20年後を見据えて、このような大村を、というご提言がありましたらお願いします。

(石)私は逆に、空港・高速道路・新幹線がなかったら、今大村はどうなっていたか、という考え方をします。つまり、5年後、10年後にこうしたいではなく、先の時代に向け、明確なビジョンを持って物事に取り組むべきだと思います。例えば、日本のどこにもないオリジナリティ溢れる大学を誘致してもいいでしょう。何か一つの核を作り、人口、ひいては収入も増えるような施策を考えなければなりません。目下、新幹線をどう活かすか、周辺をどう開発するかは、重要なテーマだと思います。

(記)最後に読者の皆様にお一言お願いします。

(石)“できるできないでなく、やるかやらないかで世界を変える”私はこの言葉が好きです。可能性溢れる大村の地にいることに誇りを感じています。商工会議所会員皆様方の御支援・御指導をよろしくお願い申し上げます。



(公社)諫早大村法人会第1回定時総会(平成25年5月27日)にて、新会長就任の挨拶をされる石坂和彦氏